

2023.9.11

Report from AKATSUKA PARK

発行：赤塚公園ニリンソウを守る会(文責:木村)

- 植物モニタリング活動 9/18、10/2、10/9 9:00 ため池公園梅林下集合
- 赤塚公園どんぐりまつり 10/7 10:00~15:00 友の会参加団体が手作りフーズを出店
- ニリンソウを守る会例会 10/15 秋の自生地手入れスタート日 10:00 大門観察台集合
*やる気のある人の自発的活動の集まりです。どの活動も、誰でもいつでも参加できます。
<問合せ：赤塚公園サービスセンター03-3938-5715>

この異常気象 草木に影響を与えないわけなし

8月はほとんど毎日「危険」を示していた環境省の熱中症予防サイトの警告表示はようやく「嚴重警戒」レベルに落ちてきました。少しだけ過ごしやすいつと感じるのですが、それも「危険」を示していたときに比べるとまだマシだという程度です。

空を見上げれば秋らしい雲が浮かんでいても西の方に入道雲（積乱雲）が立っているの、まだ夏。この暑さはまだ続きそう。人と同様に植物も大変だと思います。

イネ科植物の巨大化、「二期作」化がとまらない

毎回のようにお伝えしていますが、まちなかのふつうの街路でも異様に背丈を伸ばしている野草があります。目立つのがイネ科の植物で、とくにエノコログサの大型化が目立ちます（下の写真左）。場所によっては、実を付けた薄茶色の枯れ穂の隣に新鮮なみどりの小穂が並んでいます。それは一度咲いた花は枯れて花茎も枯れていく一方、地面からは新しい花茎が立ち上がってきて小穂が伸びてきた再展開の株です。つまり「二期作」が進行ということです。

下の写真右はオヒシバとメヒシバの揃い咲きです。写真では一面のみどりにしか見えませんが、小穂が太いオヒシバと、そのオヒシバよりも長く小穂を伸ばしたメヒシバ。これが混在していると、一目では見分けが付きにくくなっています。



色はなくても、花びらはなくても、花は花



←この写真には、前ページで紹介したエノコログサとメヒシバのほかに2種の植物が花を付けています。一つはピンクの色が付いているので**イヌタデ**だと分かりますが、もう一つは・・・？ 手前でいちばん背丈を伸ばしている**イヌビエ**、ヒユ科の植物です。

ヒユ科の植物も、イネ科と同様に花卉（はなびら）をつけないものがほとんどで、これが花であることに気が付かない人がたくさんいらっしゃいます。大きくてきれいな花びらを開いたり、良い香りを放って昆虫などを呼び寄せて受粉を手伝ってもらおう植物よりも、生きる力が強いと言えます。

今の季節は、ヒユ科の植物も全盛期で、左の左は**イノコズチ**。8/14のモニタリングレポートでもご紹介しましたが、赤塚公園ではヒナタイノコズチとヒカゲイノコズチ



チがあるのですが、植物図鑑を見ても見分けられません。そこにもう一つ、右の写真のように葉が柳の葉のように長い**イノコズチ**も生育！ その名の通り**ヤナギイノコズチ**といって、これは東京都の絶滅危惧種に指定されているものすごく貴重な野草なのです。「なんでこんなの！？」と思っても、他の場所では見たことがない植物なので、大事にしています。

赤塚公園の絶滅危惧種はニリンソウばかりではなし！

今の時期は上のヤナギイノコズチのほかに**ハグロソウ**（下の左）も絶滅危惧種。園路から観察できます。絶滅危惧種は、ニリンソウの時期には**ヤマブキシソウ**（下の右、開花期4月）、ちょっと前までは**キツネノカミソリ**（下の左、開花期6

月）も咲いていました。絶滅危惧種は他にもあります。このように、赤塚公園の林と草原は「雑草ばかり」に見えても、貴重な植物の宝庫なのです！



原は「雑草ばかり」に見えても、貴重な植物の宝庫なのです！